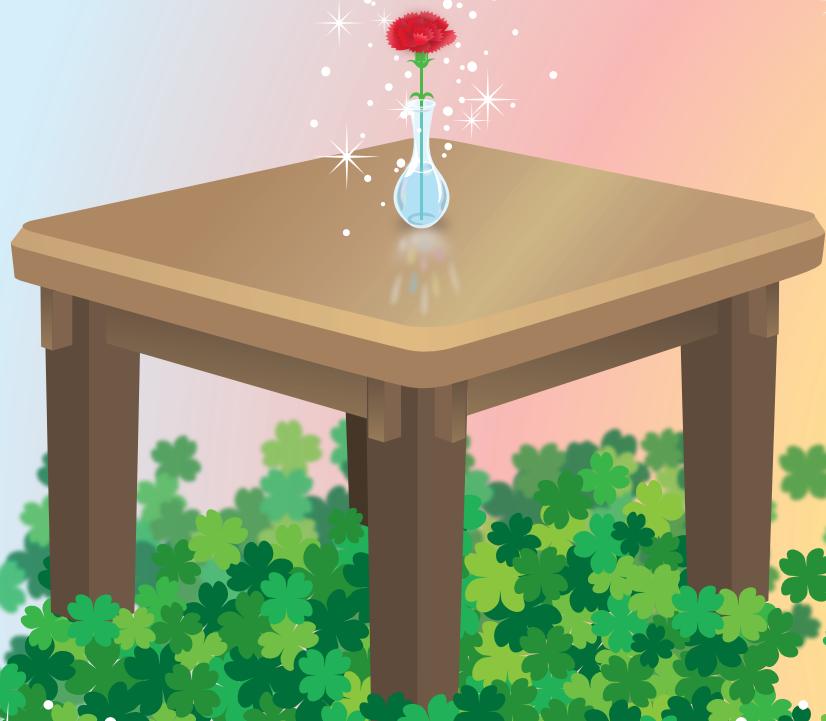


ちい はじ かろ  
「この小さな始まりを軽んじるな。」



き はっこう  
「ぶどうの木」発行  
<http://budounoki92.com/>

ひと  
**1つ**になろうよ!  
いのち え ほん いのち いと あ ほん  
～命の絵本<命の糸に会う本>～  
トラクト版



しへん  
詩篇 127 篇 へん

【主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労は  
た もの きんろう  
しゅ いえ た  
むなし。主が町を守られるのでなければ、守る者の  
まも もの  
しゅ まち まも  
さめているのはむなし。あなたがたが早く起き、おそらく  
はや お  
やす しんく た  
休み、辛苦のかてを食べることは、むなしであること。  
しゅ あい もの  
主はその愛する者に、眠っている時にも、なくてならぬ  
ねむ とき  
あた  
ものを与えられるからである。

み 見よ、子供たちは神から賜わった嗣業であり、胎の実は  
こども かみ たま しげよう  
むく たまもの そうねん とき こども ゆうし て  
報いの賜物である。壮年の時の子供は勇士の手にある  
や や み や づつ も ひと  
矢のようだ。矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである。  
かれ もん てき もの い は  
彼は門で敵と物言うとき恥じることはない。】

かいがくせい　あい　さいきんかれ　し　ふ  
クリスチャンである大学生の愛は、最近彼氏に振りまわ  
めぐみ　き  
されている恵のことが気になっていました。ある日、  
ふたり　きょうしつ　あい　こえ　めぐみ　とつぜん  
二人だけになった教室で愛が声をかけると、恵は突然  
な　だ　じ　ぶん　おも　はな　はじ  
泣き出し、自分の思いを話し始めたのです。

めぐみ　あい　わたし　かれし　おや  
恵：「愛ちゃん、私は彼氏さえいてくれたらいいの。親と  
いえ  
うまくいっていないから、家にもいたくないし…  
べつ　ともだち　ふか　つ　あ  
別に友達とも深く付き合っているわけじゃないか  
ら…まあ、いつか適当に誰かと出会って結婚でき  
てきとう　だれ　で　あ　けつこん  
たらいいかなって思う、周りもみんなそうだし…  
おも　まわ  
いま　もんだい  
今さらどうしようもない問題もあるしね…。」

あい　めぐみ　ほんとう　せいしょ  
愛：「恵ちゃん、本当にそれでいいの!?聖書にはね、  
めぐみ　う　まえ　めぐみ  
恵ちゃんが生まれる前から、恵ちゃんにとっての  
ひとり　ひと　か  
“たった一人の人”がいるって書いてあるんだよ。」

かみさま　ひとり　おとこ　ぼね　ひとり　おんな　つく  
神様は、一人の男のあばら骨から一人の女を造られました。  
おとこ　おんな　ふ　あし　と  
男が女をしえたげ踏みつけるために足から取ったもの  
おんな　おとこ　しり　し　あたま　と  
でもなく、女が男を尻に敷くために頭から取ったのでも  
たす　て　なか　よ　なら　ある  
ありません。助け手として仲良く並んで歩くようにと、わき  
ぼね　つま　たいせつ　あい　やしな  
のあばら骨から、そして、妻を大切に愛して養うようにと、

あなたには今、大切な人がいますか?  
支えたいと思う人がいますか?  
共に喜び、共に泣いてくれる人はいますか?  
自分の思いを、素直に何でも話せる相手がいますか?

あなたにとって“家族”とは何ですか?

しんぞう ちか ひだりがわ と おとこ ほね おとこ つく  
心臓に近い左側から取られました。男の骨から男を造つ  
ひとり おとこ ぼね ふくすう おんな  
たのでもなく、一人の男のあばら骨から複数の女を  
つく ぼね ひと  
造られたわけでもありません。“あばら骨をあげた人”と  
“あばら骨をもらった人”が出会ったとき、その男女が  
いittai ぼね ひと で あ だんじよ  
一体になるよう定められたのです。つまり神様は、あなたが  
う さだ かみさま  
生まれる前から、あなたにとっての“たった一人の人”  
き  
を決めておられるのです。

そうせい き しょう せつ 創世記2章22節～24節  
しゆ かみ ひと と ぼね おんな つく  
【主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、  
ひと ひと い  
人のところへ連れてこられた。そのとき、人は言った。  
「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。  
おとこ と おんな な  
男から取ったものだから、これを女と名づけよう。」  
ひとり ちち はは はな つま むす あ いittai  
それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体  
となるのである。】

せいしょ だんせい あた じよせい たす て  
聖書では、男性に与えられたその女性のことを“助け手”  
といっています。

そうせい き しょう せつ 創世記2章18節  
しゆ かみ い ひと よ  
【また主なる神は言われた、「人がひとりでいるのは良く  
ない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。】

ほんらい だんせい つく たす て じよせい  
本来、男性のために造られたのが“助け手”=女性ですが、  
ひと ひとり い かみさま  
そこには、『人は一人では生きられない!』という神様の  
おも こ ひと ひと で あ  
思いが込められています。このように人と人が出会い、  
たす あ い うえ し せい いま わたし  
助け合うという生きていく上の姿勢は、今もなお私たちに  
か てんち そうぞう はじ あた  
欠かせないものとして、天地創造の始めから与えられ  
ているのです。

めぐみ かみさま じぶん そな ひとり  
恵は、神様が自分に備えてくださっている“たった一人  
ひと そんさい し ひと じぶん たいせつ  
の人”的存在を知り、その人のためにも、自分を大切に  
おも しなければいけないと思いました。  
いま めぐみ す ひと ひと あたま  
今までの恵は、好きな人ができると、その人のことで頭の  
なか すこ かれ りそう じよせい ちか  
中がいっぱいになり、少しでも彼の理想の女性に近づ  
ひっし す かれ ようきゅう  
こうと必死でした。好きになればなるほど、彼の要求は  
ことわ すべ う い めぐみ たい あい  
断れず、全て受け入れていました。そんな恵に対して愛は、  
だんじよ かた せいしょ とお おし  
男女のあり方について聖書を通して教えてくれました。

あい かみさま せいしょ なか なんど けいこく  
愛：「神様がね、聖書の中で何度も警告しておられること  
しうらいで あ  
があるの。それは、将来出会うあなたの“たった  
ひとり ひと じぶん たいせつ  
一人の人”的ために、『自分を大切にする』とい  
いうこと!今は“できちゃった婚”や“授かり婚”が当たり  
まえ かみさま き  
前のようになっているけど、それは神様が決めた

秩序を乱すことなの。神様は、子供をむかえる夫婦としての絆、家庭の受け皿ができているところに祝福の子供を授けることを約束しておられるんだよ。生まれてきた子供に対する責任や、父親と母親になる夫婦関係、環境がつくられていなければ、離婚や虐待といった悲惨な結果になってしまって、傷つくのは生まれてきた赤ちゃんだからね。それに望まない妊娠のために悩んだり、やめる決断をして中絶することは、尊い命を消してしまうし、特に女性には心身ともに大きな傷を残すことにもなる…。今まで恵ちゃんが男女のあり方で当たり前だと思っていたことが、神様が喜ばれることではなかったら、いつ何が起こってもおかしくない。それぐらい男女の付き合い方って大事なんだよ。」

恵：「なんだ…。でも愛ちゃん、私の周りの友達は“できちゃった婚”ばかりだよ。その子たちは、どうなるの？一度、神様の秩序を乱したら、もうやり直すことはできないの？」

愛：「大丈夫だよ！聖書のことを知らなかつた時のことは、イエス様に『ごめんなさい』『許してください』って

祈って悔い改めたら、すべてのことを良い方向に導いてくださるよ。誰でも、新しい土台からやり直すことができるから、ぜひこの祈りを友達に教えてあげて。」

声にして読んでください。

「愛する天のお父様、イエス様。神様が定められた結婚の秩序を乱し、今日まで歩んできたことを悔い改めます。ここから、もう一度新しく、私たちを神様が定められた祝福された夫婦としてください、生まれてきた子供も健やかに成長させてくださったことを感謝します。私たち家族を正しい道に導いてください。アーメン。」

※「アーメン」とは、“そうなつたと信じます”という意味です。

### ヘブル人への手紙 13章4節

【結婚とその誓約を尊びなさい。純潔を保ちなさい。神様は不品行な者、姦淫する者を、まちがいなく、さばかれるからです。】

ひとす ひとを好きになったからといって、性的な関係を持って良いわけではありません。あなたが、幸せになれる相手は、あとさきひとりいつかいせいこうしう後にも先にもたつた一人だけです。一回の性交渉が、

あなたの人生を台無しにすることのないように、神様は  
厳しく警告しておられるのです。すべてはあなた自身が  
受けける祝福のために…どうか自分を大切にしてください。

恵は、自分に注がれている神様の愛の大さきを知り、  
神様に喜ばれる人生を歩んでいきたいと思いました。  
その日恵は、愛と共に今までの自分を悔い改め、神様  
に喜ばれる人生を生きるための力である、イエス様を  
受け入れる祈りをしました。そして、聖書にはどんな  
ことが書いてあるのかを、もっと知りたいと思い、愛と  
一緒に聖書を学ぶ集会に行き始めました。

### 伝道の書 12章1節～2節

【あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。恵しき  
日がきたり、年が寄って、「わたしにはなんの楽しみも  
ない」と言うようにならない前に、また日や光や、月や  
星の暗くならない前に、雨の後にまた雲が帰らないうちに、  
そのようにせよ。】

聖書を人生の基盤にすることが、祝福の道であることを  
知った恵は、聖書の教えに従っていくことで、どんどん

変えられていきました。そして聖書で約束されている通り、  
たくさんの祝福をいただく中で、就職先も決まりました。  
そんなある日、恵は真と出会いました。

いつ、どこで、どんな状況で“たった一人の人”に出会  
うのか、気になることはたくさんありますが、それは  
神様だけが知つておられることです。神様があなたのた  
めに備えてくださっている相手は、思いもよらない人か  
もしれません。でも、あなたのことを見よく知つて  
いる神様が決められた人であるならば、絶対に間違ひはあり  
ません。あなたがその相手に出会つた時、きっと今まで  
経験した好きな気持ちとは比べものにならないぐらいの  
喜びと平安、何より確信が与えられるでしょう。

恵と真は、神様のタイミングで出会つたその日から、互  
に引かれ合つていきました。  
そして、家族や仕事の話、趣味、休日の過ごし方など、  
いろいろな話をしながら互いを知つていきました。

恵：「私は真くんがどんなことに興味を持っているのか、  
どんな家族のもとで育つたのか知りたいなって思う。

だから真くんにも私っていう人間を知ってほしい。  
私は家にいても本当の自分を出せなくて、親も私  
に無関心で寂しかった。そんな環境で育ったから  
友達が一番大事で、私の居場所はそこにしか  
ないって思ってた。だから周りの友達に嫌われない  
ように振る舞って、場の雰囲気を壊さないように  
一生懸命合わせていたけれど、そんなことをして  
いたら、いつのまにか自分の気持ちを出すことに  
臆病になっていって、だんだん自分というものが  
なくなっていたんだ。恋愛話は盛り上がるけれど、  
一人になると何をやっているんだろうって虚しく  
なったり、落ち込んだりした時もあった。そして、  
自分がどういうふうに生きていけばいいのかわか  
らなくなった時、聖書に出会ったの。聖書には、  
私たち人間は、【母の胎内で神によって組み立て  
られる】と書かれていて、一人一人が『この人は  
この様に生きていくことが本当の幸せ、祝福で  
ある。』という神様からの至福の計画をもって、  
この地上に生まれてくるのだということを教えて  
もらったの。そして、一人一人が神様にとって  
『貴い一人』であると牧師さんから聞いて、とても  
うれしくなった。私はその時はじめて、どれだけ

自分が神様に愛されてこの地上に誕生してきたの  
を知ったんだ。だから、自分を大切にして生き  
ていかなければいけないと思ったの。それは私  
だけではなくて、真くんもそうなんだよ。」

### 詩篇13章9節～16節

【神様は、精巧に私の体の各器官を造り、母の胎内で組  
み立ててくださいました。こんなにも複雑かつ緻密に  
仕上げてくださったことを感謝します。その腕前は  
天下一品だと、よくわかつております。秘密の工房で私を  
組み立てる時、神様は立ち会われました。生まれる前か  
ら、まだ呼吸を始める前から、神様の目は私に注がれ  
ており、その生涯にわたるご計画も、練り上げられてい  
たのです。】

真は、自分のことを包み隠さず素直に正直に誠実に話す  
恵の姿に、ますます心が動かされていきました。そして、  
恵を変えた聖書を自分も学んでみたいと思いました。

真：「…でも聖書って難しそう。恵ちゃんにはわかった  
けど、僕にわかるかな～。」

めぐみ  
恵：「わかるよ。聖書は世界中の言語に訳されていて、  
私たち一人一人が意思さえむければ神様のことを  
知ることができるよう与えられた、神様から  
あなたへのラブレターなんだよ。私も最初はわかる  
かな～?って思ったけど、聖書に証されている  
“イエス・キリスト”を受け入れると自然にわかる  
ようになっていったの。イエス様は、神様に喜ば  
れる人生を生きるための力となってくださる方  
なんだよ。ただ声に出して告白するだけだから、  
真くんも受け入れてみない?」

まこと  
真：「そうなの?声に出して告白するだけなの?じゃあ  
受け入れてみるよ。」

こえ  
声に出て、読んでください。  
「愛する天のお父様、イエス様。私がこれまで犯してき  
たすべての罪をお許しください。イエス様が、私の罪の  
ために十字架にかかるください、3日目に神が死人  
の中からイエス様をよみがえらせたことを信じます。  
イエス様、どうぞ私の中に入ってください。そして、私の  
これから的人生を導いてください。

わたし  
また、私に聖靈と火によってバプテスマ(洗礼)を授けて  
ください。私の全身を聖靈で満たしてください。たつた  
今、聖靈をいただけたと信じます。そして異言もください。  
いただいたと信じ、舌を動かします。  
(ララララ…と声を出して舌を動かしてください。それが、  
あなたの異言です。)  
イエス様ありがとうございます。あなたがおっしゃる通り、  
私はこれから聖書に書かれてあるしと奇跡を行い、  
異言を語ります。すべての栄光はイエス様に帰して、  
感謝して祈ります。アーメン。」

びと  
ローマ人への手紙 10章9節～10節  
【すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、  
自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせた  
と信じるなら、あなたは救われる。なぜなら、人は心に  
信じて義とされ、口で告白して救われるからである。】

しとぎょうでん  
使徒行伝 1章5節  
【すなわち、ヨハネは水でバプテスマを受けたが、あなた  
がたは間もなく聖靈によって、バプテスマを受けられる  
であろう。】

しとぎょうでん しょう せつ  
使徒行伝 1章 8節

せいれい とき ちから  
【ただ、聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を  
う 受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに  
ち 地のはてまで、わたしの証人となるであろう。】

まこと めぐみ いつしょ まいしゅうせいしょ はなし き い  
それから真は恵と一緒に、毎週聖書の話を聞きに行く  
ようになりました。

ひ しゅうかい ぼくし とお けっこん かた  
ある日の集会で牧師を通して、『結婚』について語られ  
ました。

ぼくし みな けっこん な  
牧師：「いいですか？皆さん。結婚は、あこがれや成り  
ゆ 行きでするものではありません。一人の人と  
いつしょいつしょ い せいしょ か  
一生一緒に生きていくということは、聖書に書  
いてある通り、【その身に苦難をまねく】ことの  
ほう おお けっこん ふたり もんだい  
方が多いです。そもそも結婚は二人だけの問題  
あいて かぞく むし い  
ではありません。相手の家族を無視して生きて  
おも おお まちが  
いけると思ったら大間違ですよ。  
せいしょ とお かみ ひと ひと かんけい なか もっと  
聖書を通して、神が人と人との関係の中で最も  
つた たが あい あ  
伝えたいことは、【互いに愛し合いなさい】また  
じぶん あい  
【自分を愛するように、あなたの隣り人を愛しな  
さい】ということです。ですから、まずはみことばに

したが あいて かぞく  
従って、相手だけではなく、相手の家族のこと  
おな あい おな だいじ  
も同じように愛せるのか、同じように大事に  
ふく けっこん あいて  
できるのか、それも含めて結婚したい相手なのか  
じゆくりよ じぶん おや きょうだい  
熟慮しなければなりません。自分の親や兄弟を  
だいじ ひと あいて おや きょうだい だいじ  
大事にする人は、相手の親・兄弟も大事にす  
こども りょうしん みそだ  
るでしょう。子供は、そんな両親を見て育ちます。  
けっこん あいて し あいて かぞく  
結婚は相手のことをよく知り、相手の家族のこ  
し りかい あ はじ  
とをよく知り、そして理解し合うことから始まり  
ます。ですから、まずは、“人”に関心をもち、  
じぶん  
コミュニケーションをとれる自分になることが  
たいせつ  
大切です。

ひと ひと なか ぽね あた だんせい  
人と人とがつながる中で、あばら骨を与えた男性  
とあばら骨をもらった女性が出会えば、その  
ふたり ふうふ かぞく かみ  
二人はやがて夫婦となり、家族となります。神は  
いちばん ぱ  
一番のコミュニケーションの場としてすべての  
ひと びょうどう かぞく あた  
人に平等に『家族』を与えてくださっているの  
う こども かぞく ちい  
です。生まれてきた子供は、家族という小さな  
しゃかい なか あい あ ゆる あ ゆず  
社会の中で、愛し合うこと、許し合うこと、譲ること、  
がまん せきにんかん  
我慢すること、責任感などたくさんの  
まな つちか ようちえん  
ことを学び、その培ったものをもって幼稚園や  
がっこう たしや かか おさな  
学校で他者と関わっていくようになります。幼い  
こども かてい おし  
子供は、家庭で教えられたことしかできません。

両親を見て、良いことも悪いことも吸収していきます。そんなすべての土台となる家庭環境の始まりが『結婚』です。その結婚により、未来を担う子供が育ち、社会をつくり、やがて国をつくり、世界をつくる! それほど『結婚』は重んずべきものなのです。」

### ヘブル人への手紙 13章4節

【すべての人は、結婚を重んずべきである。また寝床を汚してはならない。神は、不品行な者や姦淫をする者をさばかれる。】

恵：「牧師さんの話は、毎回聖書の言葉と共に、私たちが見えていないことや、その聖書の言葉を、実際にどのように行っていけばいいのかまで教えてくれるから、聖書に基づいた歩きができるね。聖書に、【彼女は口を開いて知恵を語る、その舌にはいつもくしみの教がある】って書かれているけど、まさに牧師さんの話はいつもくしみの教え! ずっと聞いていたいよね。前に牧師さんが、『※教会は神の家族の食卓です!』って言っていたけど、最初はどういう意味なのかわからなかった。でも、今は

わかる! 家族で囲む食卓のように、牧師さんがお母さんになって、個々の成長に応じて必要なみことばを食べさせてくれる場所、共に笑い共に泣いてくれる家族がいる、心安らげるあたたかい場所、自分の思いを、素直に何でも話せる場所が教会なんだよね。

※教会とは、建物ではありません。【ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである。】(マタイ18:20)と書かれてあるように、教会=皆が集って、牧師が教え、学ぶ会を言います。

真くん、私は自分たちだけのことをよく知って、うまくいけばいいと思っていたけど、そうであってはいけないよね。それに、二人でいろんなことを話して理解し合ってきたつもりでいたけど、実際、真くんの家族のことをどれだけ知っているかと聞かれたら、まだまだ知らないことがたくさんあるな…。真くんを大切に思うのであれば、真くんの家族のことよく理解して、大切にしていきたいと思ったよ。」

真：「僕も同じことを語られたよ。前に恵ちゃんが、一人一人が神様によって大切に造られて誕生してきたって話してくれたよね?だからこそ、僕は

めぐみ 恵ちゃんを大切にしたいって思った。でも、二人だけのことではなくて、互いの家族のことも大切にしていかなければいけないんだね。

せいしょ 聖書は、人としての正しい生き方について書かれているんだね。当然のことのはずなのに、知らずに生きてきたことが多すぎて、毎回反省することがたくさんあるよ。すごいな、聖書って！思っていたイメージとは全然違っていたよ…。」

めぐみ まこと そこから恵と真は、互いのことをよく知ると共に家族のことや将来のことなども、時間をかけて話し合ってきました。

### 詩篇119篇9節～16節

わか ひと 【若い人はどうしておのが道を清く保つことができるでしょうか。み言葉にしたがって、それを守るよりほかにありません。わたしは心をつくしてあなたを尋ね求めます。わたしをあなたの戒めから迷い出させないでください。わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました。】  
あなたはほむべきかな、主よ、あなたの定めをわたしにおしえてください。わたしはくちびるをもって、あなたの口

で から出るもろもろのおきてを言いあらわします。わたしは、もろもろのたからを喜ぶように、あなたのあかしの道を喜びます。わたしは、あなたのさとしを思い、あなたの道に目をとめます。わたしはあなたの定めを喜び、あなたのみ言葉を忘れません。】

そして…

まこと めぐみ 真：「恵さん、僕の人生のパートナーになってください。」

めぐみ 恵：「はい！」

ふたり たが かぞく 二人は、互いの家族にも祝福され、晴れて結婚することになりました。

### 伝道の書4章9節～11節

でんどう しょ しょう せつ 【ふたりはひとりにまさる。彼らはその労苦によって良い報いを得るからである。すなわち彼らが倒れる時には、そのひとりがその友を助け起す。しかしひとりであって、その倒れる時、これを助け起す者のない者はわざわいである。またふたりが一緒に寝れば暖かである。ひとりだけで、どうして暖かになり得ようか。】

無事に結婚式を迎え、法律上も入籍することができた時、  
あなたのたつた一人のパートナーがその人であったことが  
わかります。

聖書に忠実に従ってきた真と恵は、神様にも、周りの人  
にも祝福され、【神のみ旨】通り夫婦となりました。

マタイによる福音書19章4節b～6節

【『創造者は初めから人を男と女とに造られ、そして言わ  
れた、それゆえに、人は父母を離れ、その妻と結ばれ、  
ふたりの者は一体となるべきである』。彼らはもはや、  
ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられた  
ものを、人は離してはならない。】

箴言19章21節

【人の心には多くの計画がある、しかしただ主の、み旨  
だけが堅く立つ。】

イザヤ書14章24節

【万軍の主は誓って言われる、わたしが思ったように必ず  
成り、わたしが定めたように必ず立つ。】

子供は神様からの贈り物

「子供は神様からの贈り物」とよく言われますが、本当のことです。神様が母となる女性の胎内で、子供を組み立てられました。

### 詩篇13章9節～16節

【あなたはわが内臓をつくり、わが母の胎内でわたしを組み立てられました。わたしはあなたをほめたたえます。あなたは恐るべく、くすしき方だからです。あなたのみわざはくすしく、あなたは最もよくわたしを知つておられます。わたしが隠れた所で造られ、地の深い所でつづり合わされたとき、わたしの骨はあなたに隠れることができなかつた。あなたの目は、まだできあがらないわたしのからだを見られた。わたしのためにつくられたわがよわいの日のまだ一日もなかつたとき、その日はことごとくあなたの書にしてされた。】

めぐみ わたし 恵：「私たちは、この子にとって、この世でたつた一人しかいない“お父さん”“お母さん”になったんだね。」

まこと 真：「よし！僕はここから父親として、どんなことがあっても家族を守り、養っていくから！」

### 詩篇127章3節～5節

【見よ、子供たちは神から賜わった嗣業であり、胎の実は報いの賜物である。壯年の時の子供は勇士の手にある矢のようだ。矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである。彼は門で敵と物言うとき恥じることはない。】

めぐみ わたし ははおや かみさま あず こ しゅ  
恵：「私は母親として、神様から預かつたこの子を、主に  
いちにんまえ そだ こ そだ せきにん  
あって一人前に育てていくね。子育ての責任は  
おお こ そんじ かみさま  
大きいけど、この子のことすべてご存知の神様が、  
ようい せいしょ したが こ そだ  
用意してくださった『聖書』に従って子育てをして  
だいじょうぶ  
いけば大丈夫だよね。」

まこと 真：「そうだな。二人で力を合わせて、この子を神様に  
よろこ ふたり ちから あ こ かみさま  
喜ばれる人間に育てていこう！」

こ ども な まえ な づ  
子供の名前はミチルと名付けました。

まこと 真：「今日からミチルは家族の一員だ。生まれてきて  
くれて、ありがとう。」

でんどう しょ しょ せつ  
伝道の書 4章9節～12節

かれ ろうく よ  
【ふたりはひとりにまさる。彼らはその労苦によって良い  
むく え かれ たお とき  
報いを得るからである。すなわち彼らが倒れる時には、  
そのひとりがその友を助け起す。しかしひとりであって、  
たお とき たす おこ もの もの  
その倒れる時、これを助け起す者のない者はわざわい  
ある。またふたりが一緒に寝れば暖かである。ひとり

あたた ひと  
だけで、どうして暖かになり得ようか。人がもし、その  
ひとりを攻撃したなら、ふたりで、それに当るであろう。  
み つな き  
三つよりの綱はたやすくは切れない。】

はは たいない こ ども く た よ たんじょう  
母の胎内で子供を組み立てて、この世に誕生させた  
かみさま ちょうし  
神様が、長子であるイエス・キリストについて書かせた  
ほん せいしょ おや あ かた おや  
本が、【聖書】です。そこには、親としての在り方、親と  
こ ども かんけい なに こ ども しょうらい  
子供の関係、何をしつけていくべきか、子供の将来に  
たい けいかく かみさま き にんげん どうり りょうしき  
対しての計画、神様が決めた人間としての道理（良識）

こた か  
など、すべての答えが書かれています。  
せいしょ しんり したが こ そだ  
ですから、聖書（真理）に従って子育てをしていけば、  
ぜつたい まちが かみさま じしん せいしょ  
絶対に間違いはありません。神様ご自身が、聖書に  
したが い こ ども いちばん  
従って生きていくことを、その子供にとっての一番の  
しわ やくそく 幸せだと約束してくださっているからです。

しんげん しょ せつ  
箴言 3章1節～8節

わたくし おし わす  
【私の教えを忘れてはいけません。充実した人生を送り  
わたし めいれい ちゅうじつ まも  
たければ、私の命令を忠実に守りなさい。いつも正しい  
せいかつ ひと しんせつ  
生活をし、人には親切にするのです。この二つが心から  
おこ み かみ ひと  
行なえるように、しっかり身につけなさい。神にも人に  
よろこ ものごと ただ はんだん  
も喜ばれ、物事を正しく判断できるようになりたければ、

てつていてき かみさま たよ ぜつたい じぶん たよ  
徹底的に神様に頼ることです。絶対に自分を頼ってはいけ  
なに かみさま だいいち かみさま  
ません。何をするにも、神様を第一にしなさい。神様が  
どうすればよいか教えてください、それを成功させてくだ  
さいます。思い上がって、自分の知恵をあてにしたりし  
てはいけません。むしろ、神様をたいせつにし信頼する  
ことで、悪の道から離れなさい。心も体もみずみずしく  
げんき 元気いっぱいになります。】

しんげん しょう せつ 箴言3章13節～20節  
よ わる くべつ ものごと ただ はんだん  
【良いことと悪いことの区別がつき、物事を正しく判断で  
ひと おおがね も こうか ほうせき  
きる人は、大金持よりもしあわせです。高価な宝石で  
なん ちえ くら もんたい  
あれ何であれ、このような知恵に比べたら問題にもなり  
ません。知恵が与えるものは、充実した人生、財産、  
めいよ たの へいあん ちえ じゅうじつ じんせい ざいさん  
名譽、楽しみ、平安です。知恵はいのちの木、いつも  
み た ひと かみさま ちえ  
その実を食べる人はしあわせです。神様の知恵によって  
ちきゅう つく うちゅう かんせん あ かみさま  
地球は造られ、宇宙は完全にでき上りました。神様  
ちえ いづみ ちちゅうふか あ そら あめ  
の知恵によって、泉は地中深くからわき上がり、空は雨  
ふ を降らせます。】

しんげん しょう せつ 箴言3章21節～26節  
ふた もと ぜんあく みわ じっこう ちえ  
【二つのものを求めなさい。善悪を見分けて実行する知恵  
りょうしき ふた みうしな ちえ  
と良識です。この二つを見失ってはいけません。知恵と

りょうしき も めいよ  
良識を持つことはたいへんな名誉です。そればかりか、  
い ちから あた しつぱい  
生きる力が与えられ、失敗をしたり、道を誤ったりする  
こともなくなります。この二つのものが見張ってくれるので、  
あんしん ねむ かみさま まも  
安心して眠れます。また、神様がそばで守ってくださる  
おも あくにん わる おそ  
ので、みじめな思いをすることも、悪人の悪だくみを恐れ  
ることもありません。】

あい りょうしん う さい  
たくさんの愛を両親から受け、ミチルは3歳になりました。

### ひ ゆうしょく <ある日の夕食>

めぐみ 恵：「ミチル、ハンバーグだけじゃなくて、サラダも  
た 食べてね。」

ミチル：「いやだ、食べられない。」

めぐみ 恵：「どうして？おいしいよ。野菜も一つ一つ、神様がつく  
さくひん た もの  
られた作品なんだよ。だからおいしくない食べ物  
はないんだよ。それに、ミチルが食べなかつたら、  
やさい いつしょうけんめいそだ ひと  
野菜を一生懸命育てた人や、ミチルのために  
りょうり かあ かな  
がんばってお料理したお母さんも悲しいな。」

ミチル：「みんながミチルのためにつくってくれたの？」

じゃあ、ちょっと食べてみる！…あつ、食べれた！」

めぐみ  
恵：「そうでしょ？トマトにはトマト、レタスにはレタスの味があるよね。すごいよね、神様は！だから、何でも感謝して食べようね。」

### ＜公園のブランコで＞

めぐみ  
恵：「ミチル、他の友達も乗りたくて待っているから、代わってあげようね。」

ミチル：「いやだ、まだ乗ってる！」

めぐみ  
恵：「ミチル、聖書には、お友達にしてもらいたいことをしてあげなさいって書いてあるよ。ミチルがブランコに乗りたいときに、お友達が代わってくれなかつたら、どんな気持ちになるかな？」

ミチル：「いやだ…代わってほしい…」

めぐみ  
恵：「そうだよね。じゃあ、まずはミチルがお友達に代わってあげよう。そうしたら、みんなが楽しく遊べるよ。」

ミチル：「わかった！…次どうぞ！乗っていいよ！」

めぐみ  
恵：「ミチルは、優しいね。えらいね！」

### がいしゅつさき ＜外出先で＞

きんじょ  
近所のおばさん：「あら、ミチルちゃんこんにちは。お父さんとお出かけ？いってらっしゃい。」

ミチル：「……」

まこと  
真：「ミチル、あいさつは？黙っていたら、ダメだぞ。どんな時でも、にこにこ笑顔で元気にあいさつしないと！神様は、いつもミチルが元気にあいさつしているかな？いつもにこにこ笑っているかな？って見ているんだぞ。」

ミチル：「え？ そうなの？」

…おばさん、こんにちは。いってきます！」

りょうしん  
クリスチャンの両親は、子供が幼いうちから、聖書には何と書かれているのか確認できるように、あらゆる場面を子供の成長の糧にして、心と良識を育んでいかなければなりません。

さま う い すぐ せいれい いただ  
イエス様を受け入れて救われ、聖霊を頂いてクリスチャンとなれば、大人も子供も関係なく、個々がしっかりとイエス様（聖書）に従っていくことができます。何歳であっても聖書の教えがわかるよう、完璧な方=イエス様が

うち はい こども おとな じゅんすい  
内に入られたのです。子供は大人より純粹です。ミチルは  
よ じょうしき ち え ぶん うたが  
この世の常識や知恵がついていない分、疑うことなく  
さま おし まも かみ ち え したが せいしょ ことば  
イエス様の教えを守り、「神の知恵」に従い、聖書の言葉を  
たいとく せいちょう  
体得しながら成長していきました。

しんめいき しょう せつ せつ  
**申命記6章6節～7節**

めい ことば  
【きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの  
こころ と つと こ おし  
心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが  
いえ ざ とき みち ある とき ね とき お  
家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる  
とき かた  
時も、これについて語らなければならない。】

びと て がみ しょう せつ せつ  
**コロサイ人への手紙3章18節～21節**

つま もの おつと つか しゅ もの  
【妻たる者よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者に  
ふさわしいことである。夫たる者よ、妻を愛しなさい。  
つらくあたってはいけない。子たる者よ、何事について  
りょうしん したが しゅ よろこ  
も両親に従いなさい。これが主に喜ばれることである。  
ちち もの こども こころ  
父たる者よ、子供をいらだたせてはいけない。心が  
いじけるかも知れないから。】

しゅうまつ  
**<ある週末・・・>**

きんようび  
**金曜日**

とう きょう いちにち しそと  
ミチル：「お父さん、おかえり。今日も一日、お仕事  
おつかれさま。」

まこと きょう かぞく  
真：「ありがとう、ミチル。今日もがんばって家族の  
はたら ために働いてきたぞ。」

めぐみ いつしゅうかん くろうさま  
恵：「一週間ご苦労様でした。」

まこと あした す  
真：「ミチル、明日はどんなことして過ごそうか？」

さんいん で  
ミチル：「三人でお出かけしたい！」

まこと い  
真：「そうか、どこに行く？」

ミチル：「ピクニックに行きたい！」

まこと あした てんき よ さんいん  
真：「いいなあ。明日は天気も良さそうだから、三人で  
い ピクニックに行こうか！」

めぐみ よ いの き  
恵：「ミチル良かつたね、祈りが聞かれたね。じゃあ  
かあ べんとうつく  
お母さん、お弁当作るわね！」

たの さま  
ミチル：「やったー、楽しみだな。イエス様、ありがとう！」

## どようび 土曜日

さんいん で まこと めぐみ  
そして、三人はピクニックへ出掛けました。真と恵は、  
げんき あそ すがた よろこみ  
元気に遊ぶミチルの姿を、喜んで見ていました。

まこと ほんとう  
真：「本当にミチルはかわいいな。生まれた時もこれ  
いじょう おも おお  
以上かわいいものなどないと思ったけど、大きくなる  
につれ、かわいいと思う気持ちはもっと強くなっ  
くるよ。それにミチルが生まれ、君と家族三人に  
なってからは、仕事をしている時でも家族のこと  
おも ちちおや かぞく ささ おも  
思うようになった。父親として家族を支えたい思いで、  
いろんなことに向かっていけるようになった。かけ  
かぞく あた ぼくじしん  
がえのない家族を与えてください、そして僕自身にも  
ちちおや ひと だいじ おし  
父親として、人として、大事なことを教えてくださる  
かみさま かんしゃ きも  
神様に感謝の気持ちでいっぱいだよ。」

めぐみ  
恵：「そうね、ミチルの日々の成長と一緒に見守る中で、  
わたし ははおや よろこ かん  
私は母親としての喜びを感じているわ。そして、  
せいしょ もと こそだ  
聖書に基づいて子育てをしていくことで、自分も  
か おも じぶん かた  
すごく変えられたと思う。つい、自分のやり方で  
こそだ ふあん  
子育てしても、不安なことばかりで…いろいろして、  
りふじん しか かた きず  
理不尽な叱り方でミチルを傷つてしまふことも  
あった。でも、いつもイエス様は共にいてくださって、

きも わたし きも ぞんじ  
ミチルの気持ちも私の気持ちもすべてご存知で、  
かなら わたし せいしょ ことば た かえ  
必ず私たちを聖書の言葉に立ち返らせてくださっ  
こそだ とお わたし じしん せいちょう  
たの。子育てを通して私たち自身も成長していく  
おも ことは、とてもすばらしいことだと思うわ。」

まこと こ ども おや み そだ おや じぶん  
真：「子供は親を見て育つから、親である自分たちが、  
せいしょ したが ある たいせつ  
まずは聖書に従った歩きをしていくことが大切だね。」

めぐみ  
恵：「これからもますます、聖書に従って歩んでいける  
ように、イエス様に祈り求めていこうね。明日の  
しゅうかい かた たの  
集会では、どんなことが語られるんだろう？楽しみ  
だね。」

つぎ ひ しゅうかい まこと めぐみ せいしょ したが そだ  
次の日の集会で、真と恵は、聖書に従って育てられ、  
せいじん ひかり あかし き  
成人した光さんの証を聞きました。

ひかり わたし しうがく ねんせい とき さま う い すぐ  
光：「私は小学5年生の時、イエス様を受け入れて救われ、  
クリスチャンとなりました。声に出して祈りの言葉を  
よ 読んだだけなのに、不思議と涙が止まらず、その  
ひ 日はずつと泣いていたのを覚えています。母は、  
わたし さき せいしょ よ  
私より先にクリスチャンになり、聖書を読んでいま

したので、私も聖書を手にとり、一緒に読むようになりました。母は私に、『聖書は、イエス様が光ちゃんに宛てた手紙なんだよ。だから、パカッと開いたページに光ちゃんに読んでほしいことが書いてあるの。』と教えてくれました。幼い私は、イエス様が自分に直接語ってくださっているという事実がうれしくて、聖書を開くのが楽しみになりました。『お母さん、ここを開いたんだけど、どういう意味?』『今日はここの言葉をもらったよ!』と、聖書を中心に母と話をすることも増えていきました。母は、いつも優しく聖書のことを教えてくれました。学校でけんかをして帰ってきた時には、『聖書には、けんかをさせたり、嫌な気持ちにさせるのは、お友達ではなくて悪魔って書いてあるよね。だから、お友達は悪くないから、許して、愛して、祝福しようね。』と、聖書の言葉に私を戻して励ましてくれました。そして、友達と仲直りができるように母と一緒にイエス様に祈り、次の日学校に行って仲直りができると、『うわあ! イエス様に祈ったからだ!』と、うれしくなり、イエス様への信仰も強められていきました。

母はどんな時も、決して自分の意見を言いませんでした。私が悪いことをした時も、カツとなって怒るのではなく、『光ちゃん、イエス様(聖書)に戻つてそれがいいことかどうか聞きなさいね。』と言われてきました。私が聖書を開くと、【両親に従いなさい】【あなたの両親を敬いなさい】という言葉が目に飛び込み、自分のしたことを反省することが多々ありました。納得できないまま強制的に謝られるのではなく、自分とイエス様の関係の中で、心から“悪かった”と認め、謝ることができました。母の内にも、私の内にも同じイエス様がいるのだから、出てくる答えも一つです。母はそのことを知っていました。だからこそ、私のすべてをイエス様に信頼してゆだねることができたのだと思います。

そして、母と私の間には余計な言葉が減り、聖書の言葉がしっかりと生活の中に根付いていきました。私がここまで、クリスチャンとして聖書の言葉を信じ続けることができたのは、母が私を育てる上で、このような聖書に従つた‘しつけ’を絶対にぶれることなくやり通してくれたからです。聖書という基盤がある子育ては、一本筋が通っていた

ので、母の機嫌や状態によって、言っていることや、やっていることが左右されるということはありませんでした。もし母が、ある時は聖書の言葉に従つて私を励まし、ある時は母の感情に従つて叱つていなら、私の信仰も不安定なものになっていたでしょう。何よりも、そんな母の姿は、私の信仰が育つうえでつまずきとなつたと思います。子供は幼くても、親の姿をよく見ていています。私もそうでした。私の目に映る母は、何があつてもどんとか構えてゆとりがあるように見え、いつも穏やかでした。そして、日常生活のあらゆる場面で、聖書に何と書いてあるのかを、私と一緒に確認し諭してくれました。母は、イエス様にとても信頼していました。自分のやり方で子育てをするよりも、イエス様=聖書が土台の子育てがどんなに楽で、平安なのかを自らをもってあらわしていました。私は、そんな母に育てられたことを幸せに思い、感謝しています。」

牧師：「光さんのお母さんは、自分の子供としてではなく、神様から預かった一人の子供=神様の子供（クリスチャン）として、光さんを育てて

きたのですね。神が造られた子供たちには、ひとりひとり一人一人に『このように生きてほしい』という、神のご計画があります。それは、聖書に従つて子育てをした時に、はつきりと見えてくるものです。だからこそ、両親が聖書に従つて子育てをすることは、その子にとって最も重大なことです。

子育ての責任は大きいですが、決して難しいことではありません。神が、私たち人間に、「父親・母親」になる資格を平等に与えてくださったということは、本来子育ては、誰でもできる簡単なことなのでしょう。なぜなら、神ご自身が、あらかじめ子育て本【聖書】を用意されているからです。聖書は、一番たくさんの言語に訳され、世界中で読まれているベストセラーブooksです。どの本屋でも簡単に買うことができます。世の中で出版されている子育て本が、あなたの悩みや問題を真に解決することは不可能でしょう。もともと神は、子供の行動をパターン化したり、例えば、性格を血液型や星座などにグループ分けして、ひとくくりにできるように、人間を

つく  
造られてはいないからです。実際、あなたが自分の  
やり方を変えたり、実践を継続していくことも  
大変なはずです。しかし、イエス様は24時間  
あなたの内におられるので、常にあなたやお子  
さんに必要なことを聖書を通して教えてくだ  
さいます。実践する力も持続する力も、イエス様  
を受け入れた時にすでに備えられています。子育  
てに一本筋を通すためには、たとえどんな状況  
が訪れようと決してぶれないものが需要です。  
それが、【聖書】という形で、私たち人間には  
すでに与えられているのです。】

ひかり  
光さんの証と牧師のメッセージを聞いた恵は、改めて、  
かみさま  
神様が求めておられる親子の在り方と聖書の大切さに  
について、イエス様が牧師を通して語ってくださったこと  
に感謝しました。

伝道の書12章12節～13節  
【注意してください。人の意見には際限がありません。  
それをぜんぶ学ぼうと思ったら、いつになんでも終わりが  
なく、疲れきってしまいます。これが私の最終的な結論  
です。神様を敬い、その命令に従いなさい。これこそ

人間の本分だからです。神様は私たちのすることは何  
でも、人目につかないものでも、善でも悪でも、みなさば  
かれるのです。】

詩篇112章1節～4節  
【主をほめたたえよ。主をおそれて、そのもろもろの戒め  
を大いに喜ぶ人はさいわいである。その子孫は地に  
おいて強くなり、正しい者のやからは祝福を得る。繁栄  
と富とはその家にあり、その義はとこしえに、うせること  
はない。光は正しい者のために暗黒の中にもあらわれる。  
主は恵み深く、あわれみに満ち、正しくいらせられる。】

自己愛や自分の利益のために、子供に我慢をさせていま  
せんか?  
言葉や親の権威(力)をもって、子供の気持ちを押さえ  
つけていませんか?  
あなたの価値観で子供の将来や希望を奪つていませんか?

# “子供は親を選べません”

今、目の前にいるお子さんにとって、父親・母親は、世界中捜してもあなた一人しかいないと、神様が決められ、それは変わることはありません。しかし、子供の将来は、親の考え方や価値観で変わっていきます。両親が苦闘葛藤して自分勝手に育てた子供は、本来歩むべき道からはずれてしまい、迷い、苦しい歩きをしなければなりません。あなたが良いと思っている子育てが、子供にとって良いものとは限りません。神様から預かった大事な子供たちに、今までどんなもの(種)を蒔いてきたでしょうか?

聖書には、【人は自分がまいたものを、刈り取ることになる】と書いてあります。親に教えてもらったことしか子供はできません。ですから、子供の姿を見せられたら、まずは自分の子育てを反省するべきです。原因は子供にあるのではなく、親にあるのです。しかし、逆のことも言えます。聖書に従って子供の良心や知性に働きかけていった時、あなたは、自分の蒔いてきたものを刈り取ることができます。愛を蒔けば、子供から愛が返ってきます。聖書に基づいた良識を蒔けば、子供も親で

あるあなたも、決して恥をかくことはありません。何より、クリスチャンの子供は、神様が決められた計画通り、すべてに祝福された人生を歩くことができるのです。この道を歩かせることができ、神様に与えられた親の仕事=子育てです。そして、そのすべての土台になるのが“家族でつくりあげていく家庭”です。

箴言13章24節  
【むちを加えない者はその子を憎むのである、子を愛する者は、つとめてこれを懲らしめる。】

箴言17章25節  
【愚かな子はその父の憂いである、またこれを産んだ母の痛みである。】

箴言19章18節  
【望みのあるうちに、自分の子を懲らせ、これを滅ぼす心を起してはならない。】

箴言22章6節  
【子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。】

しんげん しょう せつ  
箴言2章15節

おろ こども こころ なか  
【愚かなことが子供の心の中につながれている、懲らしめ  
のむちは、これを遠く追いだす。】  
とお お

しんげん しょう せつ  
箴言2章13節～14節

こ こ ひか かれ  
【子を懲らすこと、さし控えてはならない、むちで彼を  
打っても死ぬことはない。もし、むちで彼を打つならば、  
いのち よみ すぐ  
その命を陰府から救うことができる。】

しんげん しょう せつ  
箴言29章15節

いまし ちえ あた  
【むちと戒めとは知恵を与える、わがままにさせた子は  
はは はじ  
その母に恥をもたらす。】

しんげん しょう せつ  
箴言29章17節

こ こ かれ やす  
【あなたの子を懲らしめよ、そうすれば彼はあなたを安  
らかにし、またあなたの心に喜びを与える。】

しんげん しょう せつ  
箴言20章30節

きず う わる ところ きよ う  
【傷つくまでに打てば悪い所は清くなり、むちで打てば  
ここ そこ きよ  
心の底までも清まる。】

しんげん しょう せつ  
箴言6章23節

いまし おしえ ひかり きょうくん こ  
【戒めはともしびである、教は光である、教訓の懲らしめ  
いのち みち  
は命の道である。】

しんめいき しょう せつ  
申命記6章6節～7節

めい ことば  
【きよう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなた  
ごころ と つと  
の心に留め、努めてこれをあなたの子間に教え、あなた  
いえ ざ とき みち ある とき ね とき お  
が家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる  
とき かた  
時も、これについて語らなければならない。】

しょ しょう せつ  
イザヤ書5章13節

こ しゅ おしえ こ  
【あなたの子らはみな主に教をうけ、あなたの子らは  
おお さか  
大いに栄える。】

つね かみ あい こそだ  
常に‘神の愛’をもって子育てをしていきましょう。

ひと だいいち て がみ しょう せつ  
コリント人への第一の手紙1章1節～8節 a

ひとびと ことば みつかい ことば かた  
【たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語つ  
ても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒が  
いようはち おな かね さわ  
しい鏡鉢と同じである。たといまた、わたしに預言を  
ちから おくぎ ちしき つう  
する力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じて  
いても、また、山を移すほどの強い信仰があつても、もし  
やま うつ つよ しんこう

愛がなければ、わたしは無に等しい。たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分の体を焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いつさいは無益である。

愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、不作法をしない、自分の利益を求めるない、いらだたない、恨みをいたかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。愛はいつも絶えることがない。】

両親に、神の愛と聖書の言葉を注がれながら成長したミチルは、9歳の誕生日を迎えました。

牧師：「今日は、ミチルちゃんの9歳のお誕生日ですね、おめでとう。実は、聖書に書かれてある御靈の実も【愛・喜び・平和・寛容・慈愛・善意・忠実・柔軟・自制】の9つです。私は家では、二人の娘を育ててきた母親ですが、御靈の実の順番を見た時、必死に子育てをしていたころのことを思い出しました。

子供は、1歳で親から、家族から、【愛】を知り、2歳で【喜び】を知って笑うことができるようになり、すくすく育って、3歳で親や家族に守られているという【平和（平安）】を感じ、4歳で幼稚園に行くとお友達がきて、我慢して許すという【寛容】を覚えて…そして、4歳まで培った愛がふくらんで、5歳になつたら自然を愛したり、自分の利益を考えないで、相手のことも考えて優しい気持ちになって、大事に思つたり感謝したりする【慈しむ愛】が育ちます。さらに小学校に行って、6歳で【善意】、7歳で【忠実】、8歳で【柔軟】、そして9歳で【自制心】をやします。そんな子供の姿を見ては、「うわあ、こんなことができるようになった」「こんな気持ちが持てるようになった」と、その成長に感動したり、うれしい気持ちになったものです。神様は、私たちが生まれた時から、家族の愛や、周囲の環境、人との関わりを通して、一つ一つ順番にこれらの実を得られるように定められています。どれも生きていく上で、人として当然の心の成長です。そして、体が食事をとらなければ大きくならないように、心も放つて

おいたら育ちません。御靈の実を、年齢と共に  
育てていくのが親の役目であり、心を育てる  
場所として、まず神が決めておられるのが  
“家庭”なのではないでしょうか？

今日、ミチルちゃんは9個目の実になりました！  
すばらしいね。もし、それ以外の気持ちがあつたら、  
それはサタン・悪魔が入れてくるものです。悪い  
こと、嫌な気持ちは、神様からは来ないことを  
忘れないでくださいね。ここからは、お父さんと  
お母さんと一緒に、ますます御靈の実をみがき  
あげていってくださいね。」

ミチル：「はい！御靈の実が9個なってうれしいです。  
たいせつ  
大切にしたいです！」

この日真と恵は、聖書に従った子育てのすばらしさを  
改めて実感し、家庭の中に成った大きな実をイエス様  
に感謝しました。

いま  
今からでも遅くはありません。まずはあなたの大切な  
お子さんを、本来神様が決めているレール（計画）の上に

の乗せてあげてください。そしてもう一度、『子育て』を  
聖書に従って始めてください。親子で、聖書に書かれて  
いるたくさんの言葉（種）を、あなたの家庭という“庭”に  
蒔いていくだけでよいのです。その種は、水（愛）をあげる  
ことで成長し、やがて芽を出し、花を咲かせ、実になる  
でしょう。その実こそが、聖書に書かれている御靈の実、  
【愛・喜び・平和・寛容・慈愛・善意・忠実・柔軟・  
自制】です。どうか、家庭の中に、そして、あなたと  
お子さんとの間にたくさんのお実をならせてください。

### 箴言24章3節～4節

【家は知恵によって建てられ、悟りによって堅くせられ、  
また、へやは知識によってさまざまの尊く、麗しい宝  
で満たされる。】

ある年の結婚記念日、真と恵は、高校生になったミチル  
から手紙をもらいました。

『お父さん、お母さんへ

結婚記念日おめでとうございます。

いつも私の事を気にかけて話を聞いてくれてありがとうございます。  
何があつても聖書のみことばに戻してくれて、共に祈つてくれること…本当にうれしいです。

お父さんとお母さんは、夫婦で何でも話し合い、お互いに尊敬し合い、愛し合つていて、そんな二人の姿を見ながら、“私もいつかこんな夫婦関係、家庭を築いていきたい！”つて思つてきました。私にとって、お父さん、お母さんと過ごす時間は、うれしいことも悲しいことも共に分かち合えるかけがえのない時間です。私が一番心安らげる時間は、家族といふ時…そう思えることが何より幸せです。

二人が神のご計画によって出会い、結婚したからこそ、今の私がいる…そして私もいつか家庭を築いていく…家族は、そして命も! そうやってつながっていくんだね。私も、まずは神が決めたパートナーのために自分を大切にして、私がお父さんとお母さんから受けたことを、将来生まれてくる子供にしてあげられるように、これからも、

ますます聖書に従つて歩いていきたいと思います。

お父さん、お母さん、いつも私の一番の理解者でいてくれてありがとうございます。ここまで育ててくれてありがとうございます。私は、お父さんとお母さんの子供として生まれてくることができ、本当によかったです!!  
これからも夫婦仲良く、そして家族仲良く歩んでいこうね!  
イエス様、私のためにかけがえのない家族を与えてください、感謝します。

ミチルより』

“お父さん”“お母さん”と呼ばれることは、すばらしいことです。子供を授かって、あなたは初めて親になることができます。子供にとって、“お父さん”は一人、“お母さん”も一人です。代わりを立てることはできません。これほどまでに、命をかけて守らなければならない存在があるでしょうか？ 必要とされる仕事があるでしょうか？ 今、あなたが“お父さん”“お母さん”と呼ばれているのであれば、どうかその特権を放棄せず、全うしてください。もし、これから“お父さん”“お母さん”

おも  
になりたいと思っているのであれば、自分を大切にし、  
かみさま よろこ い かた  
神様に喜ばれる生き方をしましょう。次世代を担うのは、  
そだ こども  
あなたが育てた子供たちです!!

## 詩篇 128 篇

しゅ みち あゆ もの  
【すべて主をおそれ、主の道に歩む者はさいわいである。  
じぶん て きんろう み た こうふく  
あなたは自分の手の勤労の実を食べ、幸福で、かつ  
やす つま いえ おく おお み  
安らかであろう。あなたの妻は家の奥にいて多くの実を  
むす き こども しょくたく  
結ぶぶどうの木のようであり、あなたの子供たちは食卓  
かこ わかぎ  
を囲んでオリブの若木のようである。  
み しゅ ひと しゅくふく え しゅ  
見よ、主をおそれる人は、このように祝福を得る。主は  
しゅくふく よ  
シオンからあなたを祝福されるように。あなたは世に  
あるかぎりエルサレムの繁栄を見、またあなたの子らの  
こ み うえ へいあん  
子を見るであろう。どうぞ、イスラエルの上に平安が  
あるように。】

さいご  
最後に・・・

にんげん ひとり い かぞく いのち  
人間は一人では生きられません。家族による命のつな  
がりがなければ、あなたはこの世に誕生することさえ  
できませんでした。

わたし いま じぶん そんざい いのち おも わず  
私たちは、今、自分が存在していることの命の重みを忘れ  
てはいけません。家族は切っても切れない糸でつながって  
いるのです。

かみさま かてい かぞくかんけい なか ひと  
そして神様は、家庭における家族関係の中で『人として  
あ かた まな さだ  
の在り方』を学ぶよう定められました。

う ひと あた ひと  
受ける人から、与える人へ  
ささ ひと ささ ひと  
支えられる人から、支える人へ  
ひと はげ ひと  
なぐさめられる人から、励ます人へ  
まわ む かんしん ひと ひと よ そ ひと  
周りに無関心な人から、人に寄り添ってあげられる人へ  
じぶん りえき もと ひと  
自分の利益ばかりを求める人から、  
ひと いた ひと  
人の痛みがわかる人へ  
す なお ひと  
素直になれない人から、  
じぶん おも す なお あい て つた ひと  
自分の思いを素直に相手に伝えることのできる人へ  
あい もと ひと ひと あい ひと  
愛を求める人から、人を愛する人へ  
かぞく もと ひと かてい ひと  
家族のぬくもりを求める人から、家庭をつくる人へ

か てい ひと ねんだい おう うつわ くんれん  
家庭は、人が年代に応じた器になれるように訓練され、  
せ い ち ょ う せ い ち ょ う ば し よ く な  
成長していく場所でなければなりません。  
く ん れ ん か ぞ く  
あなたを訓練してくれるのは、“家族”です。

あなたには、そんな“家族”がいますか?  
か ぞ く

そ な な “家 族” が あ ま す か?

ほ ん と お か ぞ く か て い い ぎ せ き い ん  
この本を通して、家族とは、家庭とは、その意義と責任を、  
あ ら た か ん が さ い わ  
改めて考えていただければ幸いです。  
か み さ ま け い か く ど お ひ と り ほ ね  
あなたが神様のご計画通り、「たった一人のあばら骨の  
あ い て で あ い の ち そ だ  
相手」に出会えるように、そして、「命を育てる」という  
か み さ ま さ い こ う し ゆ く ふ く ま つ と い の  
神様の最高の祝福を全うできるよう祈っています。

## ひ と 1つになろうよ!

か ぞ く  
まずは、あなたの家族から…

しょ しょ う せ つ  
ゼカリヤ書4章10節a  
ちい はじ かろ  
【この小さな始まりを軽んじるな。】

わ た し き ょ う か い め い  
※(私たちの教会名)「ぶどうの木」とは、聖書ヨハネに  
ふ く い ん し ょ し ょ う  
よ る 福 音 書 1 5 章 よ り い た だ き ま し た。

『わたし（イエス様）はまことのぶどうの木、わたしの  
ち ち か み の う ふ え だ  
父（神）は農夫である。わたしにつながっている枝  
(クリスチャン)で実を結ばないものは、父がすべて  
これをとりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実ら  
せるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。  
あ な た が た は 、 わ た し が 語 つ た 言 葉 に よ つ て 既 に き よ  
さ て い て い る。わたしにつながっていなさい。そうすれば、  
わ た し は あ な た が た と つ な が つ て い よ う。枝 が ぶ ど う の 木  
に つ な が つ て い な く は な い。自 分 で は 実 を 結 ぶ こ と が  
で き な い よ う に 、 あ な た が た も わ た し に つ な が つ て い  
な く は な い。実 を 結 ぶ こ と が で き な い。

こ と ば せ い し ょ  
言 葉 (聖書)があなたがたにとどまっているならば、なん  
のぞ も と  
で も 望 む も の を 求 め る が よ い。そ う す ね ば 、 与 え ら れ る  
で あ る う。

え ら  
……あなたがたがわたしを選んだのではない。わたし  
が あ な た が た を 選 だ の で あ る。そ し て 、 あ な た が た  
を 立 て た。そ し て 、 あ な た が た が 行 つ て 実 を む す び、  
み の こ  
そ の 実 が い つ ま で 残 る た め で あ り 、 ま た 、 あ な た が た が

わたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が  
あた ちち もと ちち  
くだ めい  
与えて下さるためである。これらのことを命じるのは、  
あなたがたが互に愛し合うためである。』

イエス様としつかりつながっていれば、必ずこのみこ  
さま かなら  
じぶん うえ じょうじゅ  
とばが自分の上に成就していきます。  
わたし せいしょ しょだい しょう よげん  
私たち、聖書エゼキエル書第34章の預言により  
あつ せいしょ あい しん じっせん  
集められ、聖書のすべてのみことばを愛し、信じ、実践  
している、クリスチャンです。

※ 聖書の言葉は、「口語訳聖書」(日本聖書協会)、「リビングバイブル」  
「アニメバイブル」(いのちのことば社)から引用しました。

き はつこう  
「ぶどうの木」発行  
2012.6.16